



## 日進月歩する果樹

週末農業で通う山梨県は、言わずと知れた果樹王国。桃はピークを過ぎ、ブドウが出始めた。ブドウはこの数年で、主力が巨峰からシャインマスカットに交代するなど、変化は激しいが、桃や桃と競合し存在感が薄かったスモモの世界も大きく変わりつつあるようだ▼スモモといえば酸味が強いという印象もあって、いい桃がないような時にちよつと違った味を楽しむ程度で、主力の果樹という位置からは正直外れた存在であった。それがこのところ貴陽やサマーエンジェル等の品種がけっこう出回るようになって存在感を高めている。甘味と酸味のバランスがよく、かつ味は濃厚で、桃とはまた違った食感が楽しめる。もはやスモモは桃のすそものとしての存在ではなく、果樹として自立しつつあるという印象がある▼スモモ以上に高い評価を得ているのがネクタリンである。ネクタリンは桃の変種のようなのだが、酸味は乏しいものの、香りと濃厚な甘みが魅力だ。今や超高級果樹と言っても過言ではなく、手に入れること自体が難しい貴重品となっている▼そして桃がピークを過ぎた頃に出回るようになってきたのが、桃とネクタリンを合わせた黄金桃である。見かけは黄色みのある桃という感じであるが、桃ほどジューシーではないものの、少し噛み応えがあり、日持ちもいい。桃とネクタリンの風味を同時に味わうことができる▼この時期、JAの直売所はこれら果実を求める客の数がすごい。先日の土曜日、ちよつとあるところへのお土産用に桃を購入しようと、開店時間9時の10分前に着いたが、既に入り口から50mほどの行列ができていた。開店とともに、20個ほどの桃が入った段ボールをいくつも購入する人たちがレジに並ぶ。果樹王国山梨の夏の風景の一つだ。

(土着菌)